

第五部 スピリチュアル・ライフと弟子

□ 「スピリチュアル・ライフ（霊的な生き方）」に関する学び全体・・・8つのテーマ

- 第一部 聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か（定義）
- 第二部 スピリチュアル・ライフと 信者の生活ルール
- 第三部 スピリチュアル・ライフと 聖霊
- 第四部 スピリチュアル・ライフと 交わり
- 第五部 スピリチュアル・ライフと 弟子
- 第六部 スピリチュアル・ライフと 倫理
- 第七部 スピリチュアル・ライフと 神の導き
- 第八部 スピリチュアル・ライフと 霊的戦い

□ 「スピリチュアル・ライフと弟子」のアウトライン

信者がキリストの弟子として立つということは、スピリチュアル・ライフの重要な局面である。このテーマについては、大きく分けて2つの大項目を扱う。

一つ目は、「献身」である。これは、キリストの弟子となるための入口である。献身なくして、キリストの弟子として立つことはできない。

二つ目は、「弟子の心得」である。献身して弟子になった信者でも、まだ弟子になっていない信者でも、日々の生活ルールは、メシアの律法である。その点では同じである。では特に弟子として心得ておくべきことは何か。5つの項目に分けて説明する。

- I. 献身：キリストの弟子となるための入口
 - 1. 献身の基盤
 - 2. 献身のための3つのステップと献身の結果
 - 3. 献身しようとするときの3つの注意点
- II. 弟子の心得
 - 1. 弟子の意味と 弟子への召し
 - 2. 弟子となること 及び 世との関係
 - 3. 自分の権威と 犠牲
 - 4. 弟子の使命
 - 5. キリストの裁きへの備え

I. 献身：キリストの弟子となるための入口

1. 献身の基盤・・・神の恵み。私たちはとてつもなく大きなものを無代価で受けたから、自分を神にささげる

- (1) ロマ 12：1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

この訳では、「神のあわれみによって、勧める」となっている。

原文の語順に沿って直訳すると、次のとおり。

私は勧めます ですから、あなたがたに、兄弟たち、神のあわれみによって、献げなさい あなたがたのからだを 生きたささげ物として、神に喜ばれる聖なる (もの)、あなたがたにふさわしい礼拝である。

「献げなさい」、その基盤は、神が私たちに与えてくださったあわれみ、神の恵みである、と教えている。

神が与えてくださったものとは何か。ローマ人への手紙では、1章から11章までで、それが教えられている。義認、聖化、栄化の恵みである。

- (2) I コリ 6：19～20 あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。

信者一人ひとりの内に、聖霊が宿ってくださる。この聖霊の内住は、神が私たちに与えてくださった恵みである。私たちは聖霊の宮とされたのである。それゆえ、私たちは、自分のからだをもって神に栄光を帰すのである。

献身の基盤は、私たちが神から受けた恵みである。神が私たちのために何をしてくださったのか、それがわかるなら、私たちは喜んで、自発的に、自分自身を神にささげるはずである。

2. 献身のための3つのステップと献身の結果

ロマ12:1~2 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

(1) 献げなさい・・・第一ステップ 自分のからだを神に差し出す

献身のために最初になすべきことは、自分のからだを、どうぞ神のみこころのままにお使いくださいと、神に差し出すことである。

「献げなさい」・・・ギリシア語の文法上、1回で完了する行為を示す時制（アオリスト）が使われている。自分のからだを神に差し出すというのは、信者が一度決断してそのように行う1回限りの行為である。撤回もできないし、失敗したからといってあらためて差し出し直すということも必要ない。

失敗したときは、【スタートラインに戻って、やりなおし】ではない。倒れたところで立ち上がって、また前に進めばよい。

ロマ6:13の「献げなさい」も、同じ時制（アオリスト）である。

ロマ6:13 また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、またあなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。

(2) この世と調子を合わせてはいけません・・・第二ステップ この世から離れる

自分のからだを神に差し出したら、次に行くことは、この世からの分離である。自分が生きているこの時代の流れに調子を合わせないことである。この世は、その時代ごとにいろいろな流行を作り出し、流行は人々の欲望をかりたて、人々はその流行に乗り遅れまいとする。使徒ペテロは次のように勧めている。

Iペテロ1:14 従順な子どもとなり、以前、無知であったときの欲望に従わず、

この世と調子を合わせないことは、スピリチュアル・ライフにおいてとても重要なことである。私たちはこの世 (the world) にではなく、みことば (the Word) と一致していかなければならない。

- (3) 心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい . . . 第三ステップ
みことばに合わせて思考を一新させる → 自分を変えていただく

「心」と訳されているが、原文は、思考、考え方である。神のことばに合わせて考えるなら、内面から変えられる。それが神のことばの力である。

- (4) そうすれば . . . 献身の結果

内面から変えられた証しは、「そうすれば」、波線部にあるように、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになる。信者のスピリチュアル・ライフと聖書の要求するところが一致していくことになる。

第四部、「スピリチュアル・ライフと聖霊」で学んだ聖霊の働きとの関係で言えば、信者が献身するなら、聖霊の満たしが与えられる。献身によって神に従うことを選びとっていくなら、必ずその先には聖霊の満たしがある。

3. 献身しようとするときの注意点 3つ (ルカ 9 : 57~62)

- (1) 犠牲を払うことを覚悟せよ

ルカ 9 : 57~58 彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「あなたがどこに行かれても、私はついて行きます。」 イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕するところもありません。」

ある人がイエスに、弟子となることを申し出た。「あなたがどこに行かれても、私はついて行きます」という申し出は、献身の決意表明のように聞こえるが、彼の申し出には軽率な感じがする。彼は、イエスがする奇跡を見てきて、イエスについて行けば、いい生活ができると期待していたのではないか。

イエスは、彼に対して、「あなたも、枕するところもない生活になるかもしれない」と教えている。弟子になると、失うものや得られなくなるものがあり、犠牲を払うことになる。そういったことをしっかり想定して覚悟せよと、教えている。

(2) 躊躇するな（時を逸するな、ためらうな、後回しにするな、）

ルカ 9：59～60 イエスは別の人に、「わたしに従って来なさい」と言われた。しかし、その人は言った。「まず行って、父を葬ることをお許してください。」イエスは彼に言われた。「死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」

「まず行って、父を葬ることをお許してください」とは、【父が死んだばかりですので、先に葬儀をさせてください】という意味ではない。この人の父親はまだ生きている。この表現は、当時のユダヤ教パリサイ派の教え—息子の義務について—と関係している。【息子は、父親が生きている間は、父親の家にとどまっていなければならない。そして父親が死んだら、1年間、死者のための祈りを、亡き父親のために唱える。そこまで終えたら、父の家を離れることができる】、という教えである。

イエスから弟子への召しを受けたのに、この人は、父親が生きている間は、イエスの弟子になることはできないと、ためらったわけである。

前のタイプは軽率な人であったが、この2番目の人は、慎重すぎて時を逸するタイプである。ここでのポイントは、父親に仕えるとか、仕事に励むことなどの社会的義務はどうでもいい、ということではない。弟子になるように、との召しを受けたら、決断の時を逸するな、である。

(3) 振り返るな

ルカ 9：61～62 また、別の人が言った。「主よ、あなたに従います。ただ、まず自分の家の者たちに、別れを告げることをお許してください。」すると、イエスは彼に言われた。「鋤に手をかけてからうしろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません。」

いったん「主よ、あなたに従います」と献身したなら、後ろを振り返ってはならない。パウロも次のように言う。

ピリピ 3：13～14 兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ一つのこと、すなわち、**うしろのものを忘れ、前のものに向って身を伸ばし、**キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるという、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。